学校だより
NO　14
R6　1/12

敬　愛（けいあい）

学校教育目標
一人一人の個性を伸ばし，自ら学ぶ生徒の育成を図る

甲斐市立敷島中学校
編集　校長　山本成利

明けない夜はない

新年あけましてあめでとうございます。昨年は，本校の教育活動に対して，ご支援ご協力をいただき，誠にありがとうございました。今年もよろしくお願いいたします。

（式辞・３学期始業式）

みなさんにとってこの冬休みは，有意義なものとなったでしょうか。さて，空と海が美しく交じり合う能登半島で大地震が起きて１週間あまりが過ぎました。まだまだ余震が続いており，予断を許さない状況が続いています。3万人を超す人たちが，今も避難生活を送っています。それまでの日常は遠のき，経験したことのない非日常な現実に戸惑う日々だと思います。被災した人々は肩を寄せ合い，懸命に堪え忍んでいることと思います。連日の大きな揺れに疲労が増し，水は無く電気は通らない場所もある。さらに無情の寒さや風雪や雨が猛威を振るい，寒さが人々の体から熱を奪う。命が危機に瀕している方々もいることでしょう。改めて，大自然の前では，私たち人間は無力なのだと痛感しました。

しかし，東日本大震災やコロナ禍を，力をあわせて乗り越えてきたのも私たち人間です。絆の力や思いやりで，光を被災地に届けようとする動きが，手を伸ばそう，連なろうとする，全国の多くの方々の行動が被災地へ希望をもたらします。みなさんにも心を寄せてもらいたいと思います。生徒会本部の方から，支援への呼びかけがあったときには，協力をお願いします。

さて，学校再開も目途がたたない地域があるなか，こうして３学期の始業式を全校で行えることを幸せに思います。能登地震など新春からの災害などのニュースを聞きながら，私は『明けない夜はない』という言葉を思い出していました。それは「どんなつらいことも，必ずいつか終わる」という意味の言葉です。明けない夜はありません。どんなに真っ暗の闇であっても，いずれ夜が明けます。明るい日差しが差し込み，世界が一変するときがきます。被災地で苦しんでいる方々へ，そして今を精一杯生きようとしているみなさんへもこの言葉を贈ります。『明けない夜はない』，そのときを信じて，できることをお互いに実践していきましょう。新しい年もみなさんには自分の夢や希望を大切にして，そして自分を支えてくれる人を大切にしながら，こうして学校生活が送れることに感謝の気持ちを忘れずに，頑張ってほしいと思っています。

それからもうひとつ，『木を見て森を見ず』という言葉があります。「目の前のことだけにとらわれてしまい，大切な全体が見えなくなってしまうこと」を示す言葉です。３年生は，受験，入試，試験，面接，・・・と大変な時期をこれから迎えます。差し詰め，３年生で言えば，“進学して自分は何がしたいか”，“何のために勉強するのか”，“自分の夢や希望の実現のためにどうしたいのか” などを考えることでしょうか。このように，新年の抱負や卒業や進級に向けての目標を，全校生徒の皆さんには，この機会に確認してもらいたいと思います。

また，感染症対策，交通事故やけがなど，目の前のことにも注意を払う必要があります。『森を見て木を見ず』ばかりでも困ることがあります。学習では毎日の１時間，１時間の授業を大切にしていくこと，家庭での学習も毎日の積み重ねが大切と思って続けていくようにしてほしいと思います。また，友達との人間関係，部活動のこと，日常生活の何気ないことでも，その時，その時を大切にしていってほしいと願っています。なぜなら，この一瞬，一瞬の積み重ねが，みなさん一人ひとりの未来につながっていきます。以前みなさんに話をしたように『自分の未来は自分しかつくれない』と私は思います。みなさんには，これらのことを意識しながら，学校生活に取り組み，素晴らしい年，素晴らしい３学期にしてほしいと思います。

＜代表生徒の決意発表＞

僕は３学期に頑張りたいことが３つあります。部活動ともっと良い学年をつくることと勉強を頑張ることです。部活動では新人戦で悔しい思いをし，基礎や体調管理，バスケへの取り組み方が甘かったと反省しています。「コートの外に勝負あり」の言葉の通り，日常の学校生活を頑張り，バスケでも活躍できるようにしていきたいです。（１年１組　石田悠翔さん）

この３学期を３年生０学期と考えて過ごすことです。学校のリーダーであり、お手本であり続けなければならない３年生に、自信をもってなるために、あたりまえのことをあたりまえにできる学年になりたいです。そのためには自分から呼びかけをして思いついたことは行動に移していきたいです。（２年４組　高野泰我さん）

当たり前の日常は，当たり前ではないことを感じました。新しい学期は，２学期までの反省をいかし，新しい生活に向けた心構えが大切です。それには自分に合った目標をつくることです。高すぎず，低すぎない，努力することによって達成できるような目標をつくっていきたいと思います。今年度最後の学校生活を大切に，来年への準備をしていきたいと思います。（２年５組　遠藤明来さん）

今年の冬休みは，私は前期試験に向けた面接練習と特色適性検査の練習があり，学校に通う毎日でした。また，これまでと違って勉強のことが気になる年末年始でした。とても忙しくあっという間に過ぎてしまいましたが，その分中身の濃い充実した冬休みでした。私たち３年生はいよいよ受検を迎えます。高校受験は初めてのことで私自身不安ですが，「受験はチーム戦」という言葉を胸に，みんなで支え合いながら，これからの日々でしっかりと準備をして，試験本番には自信を持って臨めるようにしていきたいです。（３年３組　佐々木莉玖さん）

先輩の作文から学ぶ～自己を見つめて～

「私は第一志望校を受験します」ついこの間まではそう思っていました。しかし，私が受験するのは第二志望の高校です。これを決めるにあたってものすごく悩みました。今まで自分は第一志望の高校に行く事しか頭になく，広い範囲に目を向けることができませんでした。２学期末に行われた学力テスト。私はどう勉強したら良いかわからず，中途半端なまま受けたテストでは，ビックリするくらい悪くて，とても第一志望校にいけるような成績ではありませんでした。その後行われた懇談でも第一志望校は難しいと言われてしまいました。

私は，ショックで，ショックで，もう目の前が真っ暗でした。その夜も，私に話をしようとする両親を避け，部屋でずっと泣いていました。不安と自分の情けなさにあきれてしまいました。それから毎日のように両親に進路のことを問いかけられました。私はそれがたまらなく嫌でした。自分の弱いところをつかれるようで，こわかったからです。また，その問いかけに応えることができない自分が本当に嫌でした。でも，進路からは逃げられません。刻々と迫ってくる受験の日。私はこのままではいけないと思い，必死で考えました。

そのとき，一番最初に浮かんだのは「部活動」でした。毎日のいつ終わるかわからない練習。その練習の中で私が学んだことは逃げることではなく，「実行する勇気」。逃げずに前に進んでいくことです。そして，両親と向き合うことを恐れず，自分の中にある「薄っぺらいプライド」をすべて取り払いました。そして，取り払って残っていたのは何もありませんでした。私が第一志望校にいきたかったのは薄っぺらいプライドのためだけでした。そうしていくうちに私は将来のことについて考えました。私は正直言って将来何になるかは決まっていません。そうなれば，将来の夢を決めるのに，もう少し時間が必要です。そこで，普通科ならまだ将来の夢を考える時間があると思い，第二志望校の普通科を選択しました。ここまで決めることができたのは先生，両親，そして友だちがいたからです。私は進路を決めていく上で，こんなにたくさんの人に支えられていたことに気がつき，感謝の言葉である「ありがとう」という言葉がこんなに重みのある言葉と気づきました。私は合格する事ができたら，心の底から感謝の気持ちを「ありがとう」という言葉で伝えたいです。

この作文は私の教え子が中３のこの時期に書いた作文です。志望校の選択，受験前の不安や焦り，揺れる思いがよくわかります。しかし，この生徒は進学した高校で大きく実力を伸ばし，念願であった第一志望の大学へ進学し今は社会人として活躍しています。このようにたくさん悩んだこと，苦労したことは決して無駄にはなりません。岐路に立っている３年生のみなさん，頑張って前進していきましょう。